

科学史上最悪のスクandal

米国在住 H.M.博士

科学史上最悪のスクandal

先月、イギリスのある著名な科学者の千通を越す e-mail や研究データ・プログラムが何者かによってリークされ、欧米のメディアを駆け巡っています。リークされた情報が発端となり地球温暖化を巡る世界規模の不正が暴かれ、イギリスとアメリカの議会も重い腰を上げ調査に乗り出しました。誰が名付けたのか、事件は“Climategate”と呼ばれています。

リークされたメールは、地球温暖化研究の世界的権威 Philip Jones 教授のもの、彼はイギリスの East Anglia 大学・気象研究所 (CRU) 所長です。問題となっているメールは欧米の新聞などで読むことができますが、要点を挙げると、

- ・ CRU が行っている世界各地の気温観測の結果を多数の科学者で不正操作し、温暖化を演出していた。
- ・ 40 人以上の著名な科学者で学会誌の査読班を作って主要ジャーナルを乗っ取り、温暖化を否定する論文を却下していた。
- ・ イギリス気象局や BBC を味方に付け、IPCC すらコントロールしていた。

Fox ニュースでは“温暖化に否定的な研究者の博士号を取り消すよう大学に圧力をかけていた”とも報じていましたが、やりたい放題だったようです。Climategate で最も深刻なのが、データ不正。CRU の観測結果は国連 IPCC で地球温暖化を示す最も重要なデータとして採用されていますが、Jones 教授のメールによると、

“Mike が Nature に載せた論文で使ったトリックを使い、私は 1961 年以降の平均気温の温度低下を隠した。”

Mike とは Pennsylvania 州立大学の Michel Mann 教授、Al Gore 元副大統領の盟友で IPCC の超大物、20 世紀の急激な温暖化を論文に発表し世界中の注目を浴びた男です。メディアの追及に対し、渦中の Jones 教授・Mann 教授らは、

“トリックとはうまい方法という意味で、不正を行ったわけではない”

と弁明していますが、調査しようにも CRU の原データは消去されてしまった模様。データの消去自体、情報公開法への重大な違反ですが、幸か不幸か Climategate で流出したプログラム[1]から彼らがどんな“トリック”を使ったのか知ることが出来ます。

```
yrloc=[1400,findgen(19)*5.+1904]
```

```
valadj=[0.,0.,0.,0.,0.,-0.1,-0.25,-0.3,0.,-0.1,0.3,0.8,1.2,1.7,2.5,2.6,2.6,2.6,2.6]*0.75
```

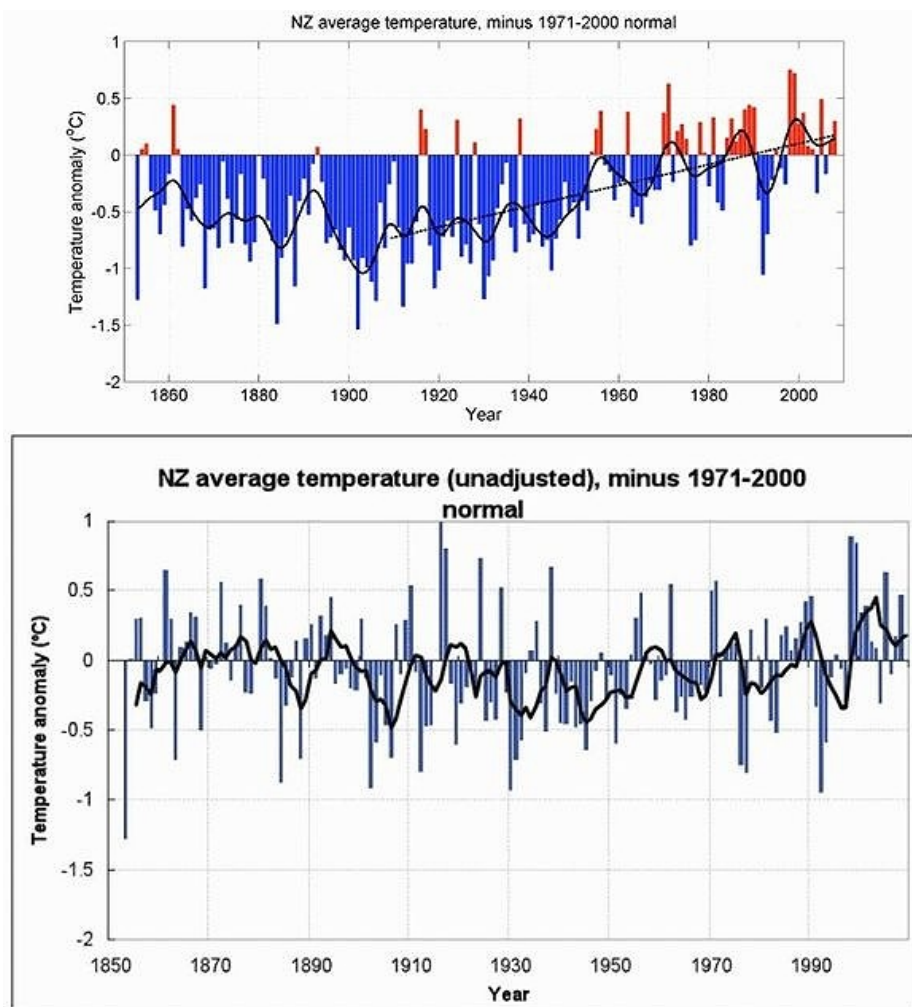
これは 20 世紀の気温をグラフ化する際、CRU の副所長 (Keith Briffa 教授) が使ったスクリプトの核心部分。1 行目で 1904~94 年を 5 年ずつに区切り、各区間の気温 (実測

値)に2行目の数字を加算しています。即ち1904~24年は加算なし、1929~49年は(温暖期なので)温度を引いて低く見せ、その後は徐々に気温を底上げし1979年以降は1.95度(2.6×0.75)も下駄を履かせています。20世紀に気温が急激に上昇したのは二酸化炭素のせいではなく、イギリスの片田舎の密室で行われた歪曲のため。この部分を取り除くと、過去100年間で地球は寧ろ寒冷化していたようで。また、Mann教授が使ったと思われるスクリプト[2]にも同様の歪曲処理が見られます。

不正は他にも次々と見つかっています。現在よりずっと気温の高かった中世温暖期を“なかったこと”にしていたり、大昔の気温を見積もる際に暑かった年を統計から外したり・・・

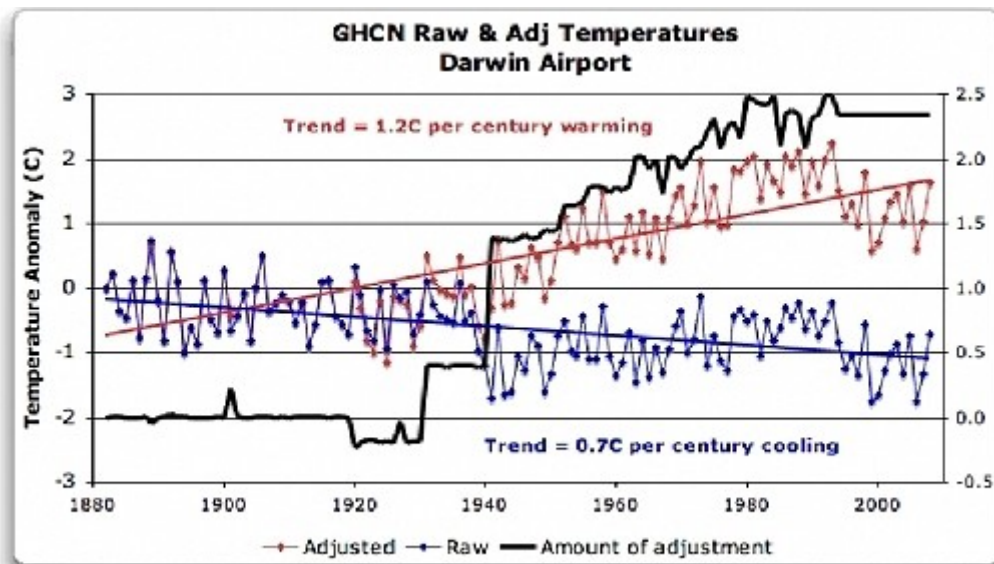
IPCCではCRUの“急激な温暖化”ばかり注目されていますが、氷床コアや木の年輪、衛星を使った測定では有意な温暖化は観測されておらず、特に二酸化炭素による温室効果の一番の証拠となる“10 km 上空の温度上昇”は気球観測によって明確に否定されています[3]。アメリカ航空宇宙局(NASA)の気温観測は地球温暖化を支持していますが、後述するようにNASAもデータ不正が発覚しており信用に値しません(NASAは単純なミスだと主張)。

実際のところ Climategate は氷山の一角に過ぎず、世界中で“魔女狩り”が始まっています。例えば次のグラフは、ニュージーランドの気温変化。



グラフ（上）はニュージーランド水圏大気研究所が発表していたもので、20世紀に急激に温暖化していますが、別の科学者がデータを再調査したところ CRU と同種の不正が見つかり、実際の気温変化はグラフ（下）だったというわけ[4]。

そして下のグラフは、Global Historical Climatology Network (GHCN) が公開している世界各地の気温データのうち、オーストラリアの気温観測ステーションの一つ。GHCN の気温データは IPCC でも公式採用されていますが、オーストラリアの科学者が消されずに残っていた現地の観測ステーションの生データを調べたところ、GHCN で公表されている“100年間で 1.2°Cの温暖化（赤線）”どころか、本当は 0.7°Cも寒冷化（青線）していたことが分かりました[5]。何者かがデータに細工したようです。



GHCN は南極の平均気温を算出する際にも顕著な温暖化を示す一つの観測ステーションのデータだけを採用し、温暖化を否定する他のステーションのデータは破棄していたそうです[6]。

疑惑はアメリカにも飛び火し、Obama 政権の科学技術顧問 John Holdren は CRU の不正への関与が疑われていますし、天下の NASA も気温データの操作が指摘され訴訟に発展しそうです。NASA は過去のアメリカの気温を不当に低く改竄したり、昨年、『観測史上、最も暑い 10 月だった』と発表した際は、10 月の気温データに 9 月のものを混ぜていたことが発覚しています[7]。

またアメリカ海洋大気圏局 (NOAA) は全米各地に気温観測ステーションを設置していますが、市民が調査を行ったところ、大平原や荒野に設置されているはずのステーションがいつの間にかアスファルトの駐車場やエアコンの排熱口の近くに移動されており（下の写真）、全米のステーションのなんと 89%が不適切な場所に置かれていたそうです[8]。



アメリカが急激に温暖化したのは、観測ステーションを熱源の近くに移動させたから！？

NASA も NOAA も、原データの公開を一切拒否しています。もはや個人レベルの捏造ではなく、研究機関・業界がグルになって不正を働いているとしか思えません。出るわ出るわで、IPCC は“国際ペテン師学会”と名前を変えるべきかもしれません。

私の同僚の一人は、

“Intergovernmental Panel of Cons and Criminals にすれば、IPCC のままで済む”

と、きつついアメリカンジョーク。温暖化の恐怖を散々煽ってきた学会とリベラル派の政治家は Climategate の火消しに躍起になっていますが、今回は揉み消すには話が大きくなりすぎたかもしれません。Copenhagen の会議は始まったものの、京都議定書や IPCC が最大の拠り所とした CRU の観測結果はもはや極めて疑わしく、世界のあちこちで不正が見つまっている状況で、二酸化炭素削減を話し合う意味はあるのでしょうか？

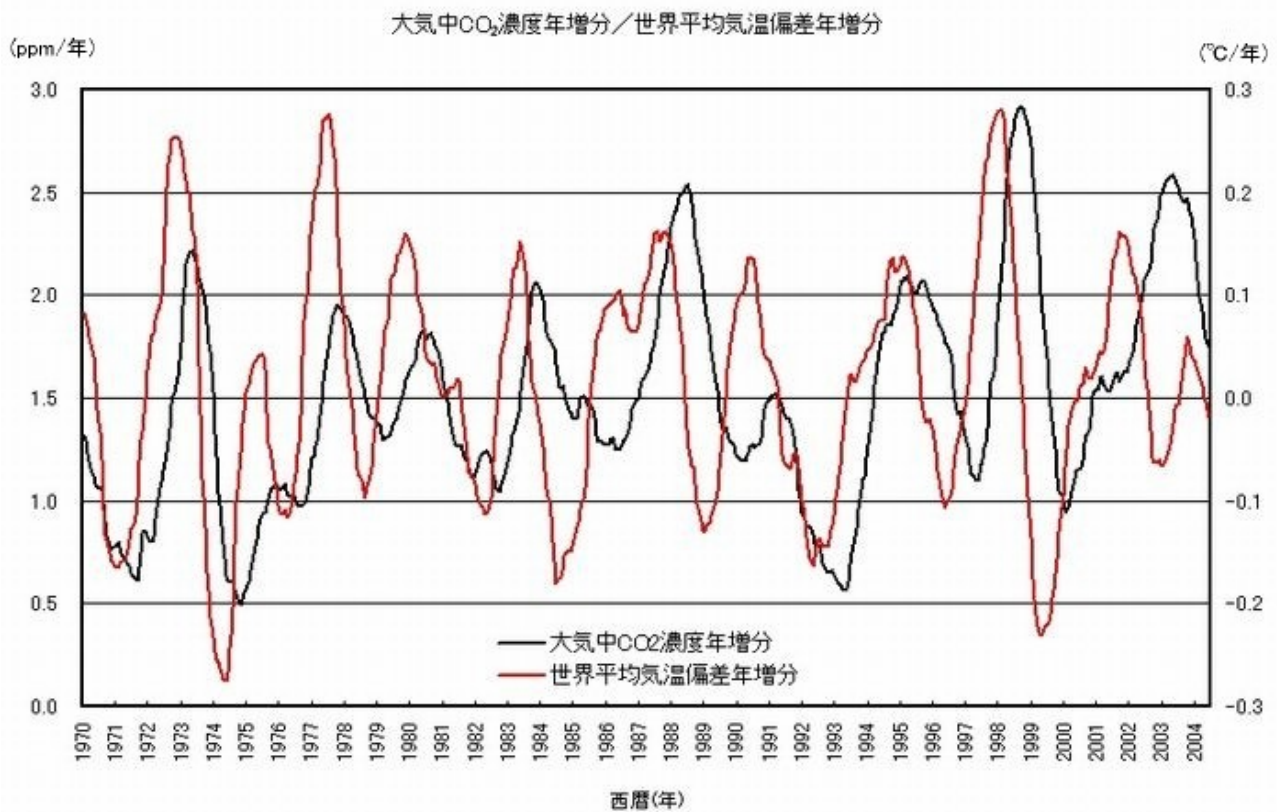
East Anglia 大学は CRU の温暖化観測で注目され 20 億円以上の研究費を獲得していますし、NASA に至っては温暖化研究で年間 1 千億円もの予算が下りています。Climategate は、良心の呵責に耐え切れなくなった内部の科学者がリークしたのではないかと噂されていますが、人生を棒に振ると知っていて、彼（彼女？）はどんな思いで告発に踏み切ったのでしょうか・・・

イギリス・アメリカの議会は調査を開始しましたが、今度こそ真実を明らかにしてもらいたいものです。

地球温暖化とは何だったのか

大気中の二酸化炭素濃度と地球温暖化の間に相関があることは古くから知られており、Al Gore の映画でも強調されていましたが、実際はどのようなのでしょうか？

次の図は昨年日本物理学会誌に掲載されたグラフで[9]、寒冷期が終わり地球が温暖化した 1970 年代以降の二酸化炭素濃度と世界平均気温の変化を比較しています。



確かに相関はありますが、よく見てみると気温変化（赤）が二酸化炭素の濃度変化（黒）に1年くらい先行していることが分かります。従って、二酸化炭素が地球の温暖化を引き起こしたのではなく、因果関係はその逆で、

『地球の気候変動が大気中二酸化炭素の濃度変化を引き起こしている。』

日本物理学会誌の記事にも書かれていましたが、海水中には大量の二酸化炭素が溶解しており、気温の上昇に伴って海水中の二酸化炭素が大気中に放出されたと理解すべきでしょう。ソーダを温めると炭酸が抜けるのと同じ原理です。

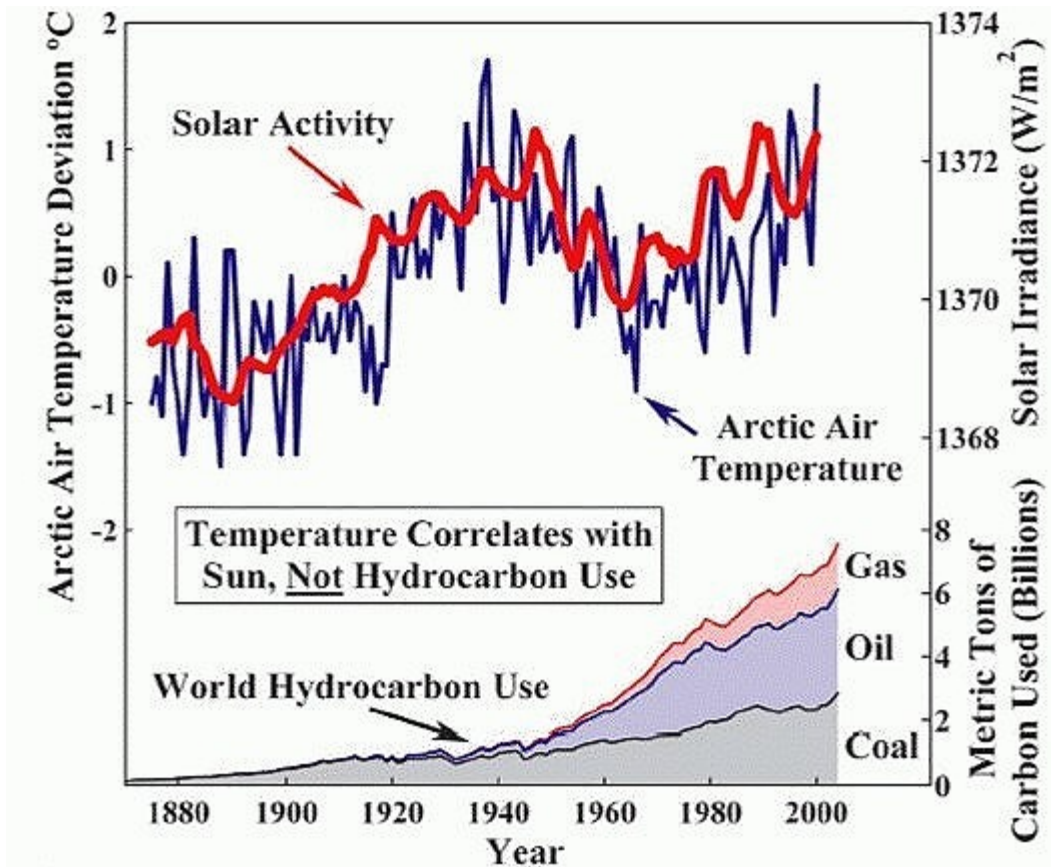
そもそも人間起源の二酸化炭素排出量は、自然界全体の僅か2~3%にしか過ぎません。二酸化炭素が増えると濃度に比例して森林・海洋への吸収も増加するため、

『産業革命以降、人類が排出した二酸化炭素が大気中に蓄積されて...』

という IPCC の主張は間違い。正しくは“炭素循環”で考える必要があり、濃度に関わらず毎年 30%の二酸化炭素が自然界に吸収されるため、1 年前に排出された二酸化炭素は 49% (0.7×0.7)、10 年前に排出された二酸化炭素に至っては現在では 2% ($0.7 \times 0.7 \times 0.7 \dots$) しか大気中に残っていません。従って人間が排出を続けても大気中の二酸化炭素の総量は無限に増え続けるわけではなく、年間排出量の高々2 年分に収束します（等比級数の和）[9]。

それでは、地球の気候変動を引き起こしているのは何なのでしょう？

答えは、空を見上げると見つかります。



上の図は Oregon 大学のグループの論文[10]、過去 100 年間の日射量と北極の気温変化をプロットしたのですが、非常に良く一致しています。

『地球の気候変動の主因は太陽活動である』

その結論を、私も支持します。

地球温暖化とは、一部の科学者が研究費を取るため“二酸化炭素で地球が温暖化している”と言い出し、環境団体や原発推進派が乗っかり、マスコミが恐怖を煽り、政治家が宣伝に利用して既成事実化された。それに環境技術で先行するヨーロッパ各国、権力を強化したい国連、そして排出量取引で大金を手にする途上国が飛び付いた。一番損したのは日本で、“排出枠”とやらを購入するのにチェコやウクライナに数百億円もプレゼントしてまですし、京都議定書を遵守するため今後 5 年間の排出量取引で最大 1.7 兆円もの富が日本から流出する。ストーリーは筋書き通りに進みましたが、この 10 年間、地球は寒冷化してしまった・・・

『人間が排出した二酸化炭素による地球温暖化は科学的根拠に乏しい』

アメリカでは“Oregon Petition”に 3 万人を越す科学者が署名していますし、私も同僚たちと共にサインしました。

“王様は裸だ！”

そろそろ叫ぶ時ではないでしょうか。

※地球の気候変動の原因には諸説あり、宇宙線による雲生成や北極振動などが有力な説として注目されています。ただ、少なくとも太陽活動（黒点数）と地球の気温との相関は断定できると思います。

References:

- [1]http://www.di2.nu/foia/osborn-tree6/briffa_sep98_d.pro
- [2]http://www.di2.nu/foia/osborn-tree6/mann/oldprog/pl_decline.pro
- [3]<http://scienceandpublicpolicy.org/images/stories/papers/monckton/whatgreenhouse/moncktongreenhousewarming.pdf>
- [4]<http://wattsupwiththat.com/2009/11/25/uh-oh-raw-data-in-new-zealand-tells-a-different-story-than-the-official-one/>
- [5]<http://wattsupwiththat.com/2009/12/08/the-smoking-gun-at-darwin-zero/>
- [6]<http://noconsensus.wordpress.com/2009/12/13/ghcn-antarctic-warming-eight-times-actual/>
- [7]<http://www.telegraph.co.uk/comment/columnists/christopherbooker/3563532/The-world-has-never-seen-such-freezing-heat.html>
- [8]<http://www.heartland.org/books/PDFs/SurfaceStations.pdf>
- [9] 槌田敦, 日本物理学会誌 62 (2007) 115.
- [10]<http://www.jpands.org/vol12no3/robinson.pdf>

科学史上最悪のスキャンダルの続き

米国在住 H.M.博士

昨年、地球温暖化を巡る不正・捏造疑惑である“Climategate 事件”について書いたところ、友人から早く続きを書けとせつつかれています。科学に携わる者として科学不信につながることを記事にするのは大変気が重いのですが、真実を解明し今後の教訓にする必要があるとの思いから、再びペンを執ることを決めました。

昨年 11 月に勃発した Climategate で地球温暖化を巡るデータ不正・捏造は世間の知るところとなりましたが[1]、今年に入って Climategate は下火になるどころかあちこちに飛び火しています。イギリスの Times が先週、

『ヒマラヤの氷河が 2035 年までに溶けてなくなる可能性が高い』

という国連 IPCC の報告が一人のインド人の根拠のない憶測だったことをすっぱ抜きましたが[2]、今週は、

『温暖化で台風や洪水等の自然災害が多発する』

という IPCC の警告に科学的根拠がなかったことを、またまたイギリスの Times がすっぱ抜いて話題になっています[3]。IPCC はこのウソに 2008 年の段階で気付いていながら、訂正せずずっと黙っていたようで、極めて悪質。また、IPCC の代表執筆者の一人だった John Christy 教授 (Alabama 大学) は、IPCC が地球温暖化の恐怖を煽るため科学を平気で歪曲していたことを CNN ニュースで告発していましたし、IPCC は“国際ペテン師学会”と改名すべきかもしれません。

実際のところ IPCC の報告書は科学的な裏付けのない“温暖化の証拠”で溢れており、第二・第三の“ヒマラヤ”になりそうな事例を挙げると、

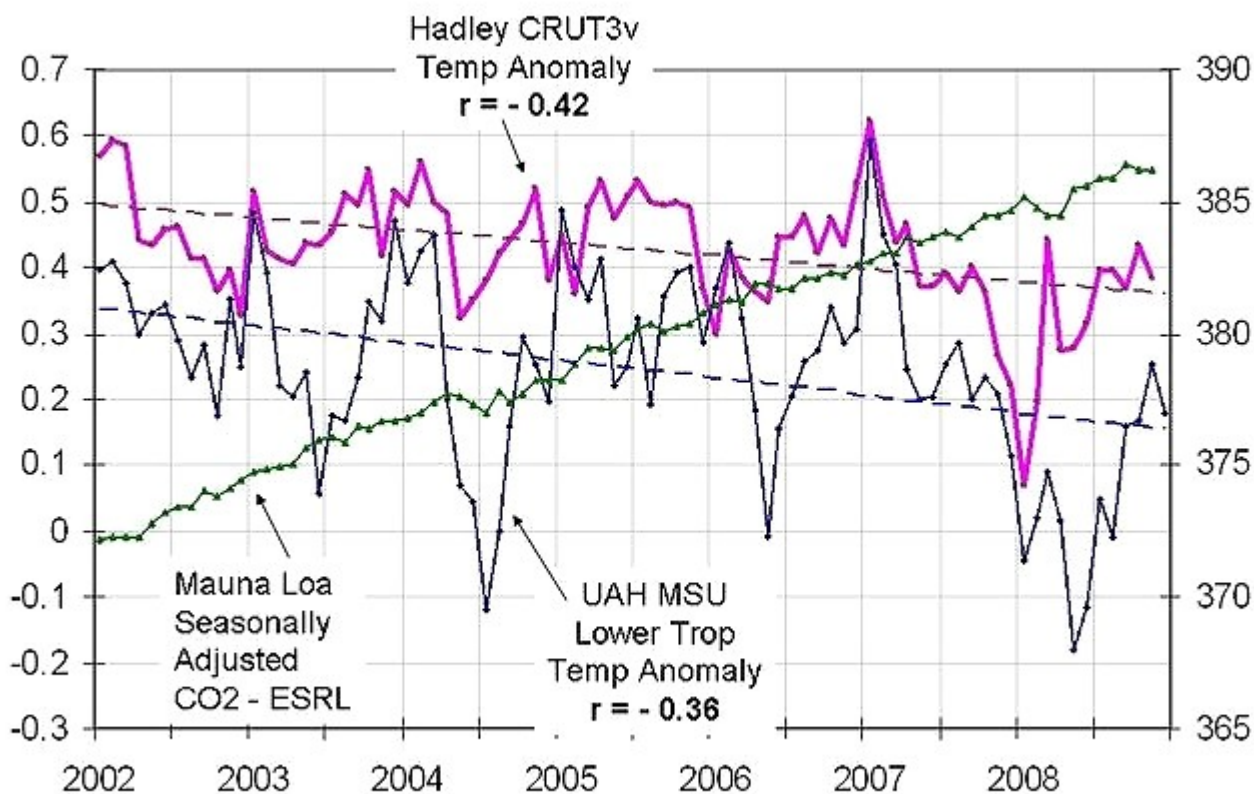
- ・地球温暖化が原因とされるツバル水没は、防波堤の役目を果たしてきたサンゴ礁がゴミ廃棄で壊滅したことが原因であること[4]。
- ・北極の氷の減少は地球温暖化ではなく海流（熱塩循環）の周期的な変化が原因であると NASA のジェット推進研究所（JPL）のチームが突き止めており[5]、チームの予測通り 2007 年を境に海氷面積は増加に転じたこと[6]。
- ・キリマンジャロの氷河の消失は 130 年前の気候変動による降雪量の減少が引き起こしたのであり[7]、温暖化が直接の原因でないことをタンザニア気象局も認めていること[8]。

アマゾンの熱帯雨林の 40% がなくなる、アフリカの農業が壊滅的な打撃を受ける・・・ IPCC が実しやかに捏造した話は他にもたくさんあります。最近ではリベラル系メディアの CNN ですら

“本当に地球が温暖化しているのか再調査する必要がある”

と懐疑的な姿勢に転じていますが、私に言わせると、気付くのが遅い。

Hadley CRUT3v and UAH MSU vs CO2



上のグラフは地球平均気温の変化を表したもので（20世紀平均からの偏差）、ピンクは Hadley CRUT（イギリス気象局と East Anglia 大学・気象ユニット）、青は UAH MSU（Alabama 大学）の公表しているもの、共に IPCC の最重要指標です。グラフからここ 10 年、地球気温は低下の一途を辿ったことが分かりますが、昨冬に続いて今年もアメリカやヨーロッパ、アジアは記録的な大寒波に襲われており、大量の死者も出しています。IPCC の発表を信じると、

『地球は 20 世紀に 0.6℃温暖化した』

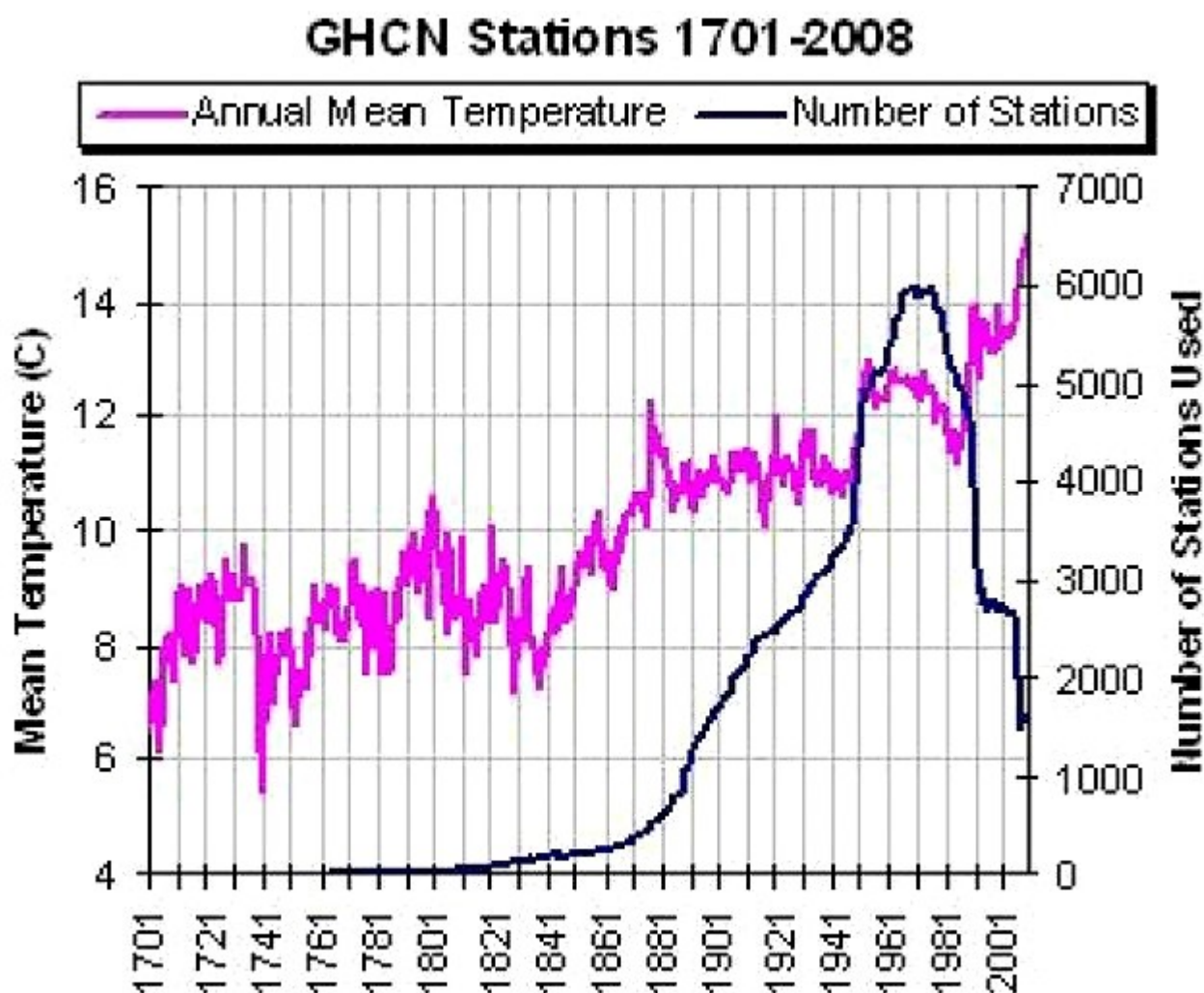
そうですから、ここ 10 年で 0.3℃の寒冷化は確かに急激な気候変動だったわけです。尤も、『20 世紀に 0.6℃温暖化』も、これから述べるように大ウソであった可能性が極めて高いです・・・

Climatagate 事件で真っ先に炎上したのはイギリスの East Anglia 大学・気象ユニット（CRU）でしたが、本当の震源地は、Harry というプログラマー（学生？）の書いたメモ [9] を発端に明らかになりました。Harry 君は CRU で世界中の気温観測ステーションのデータを整理していたようですが、Climatagate で流出したメモによると、

“何てこった！（CRU の）データベースには何百というダミーのステーションが登録されている。しかも同じステーションのデータがあちこちに何度もコピーされている。こいつは糞つたれだ！”

彼はきっと、見てはいけない物を見てしまったのでしょう。CRU の使っていた気温データの多くはアメリカ海洋大気圏局（NOAA）から提供された物だったため、疑惑の目は必然的に NOAA に向けられました。蓋を開けてみると NOAAこそ地球温暖化詐欺の巨大な震源地だったわけで・・・

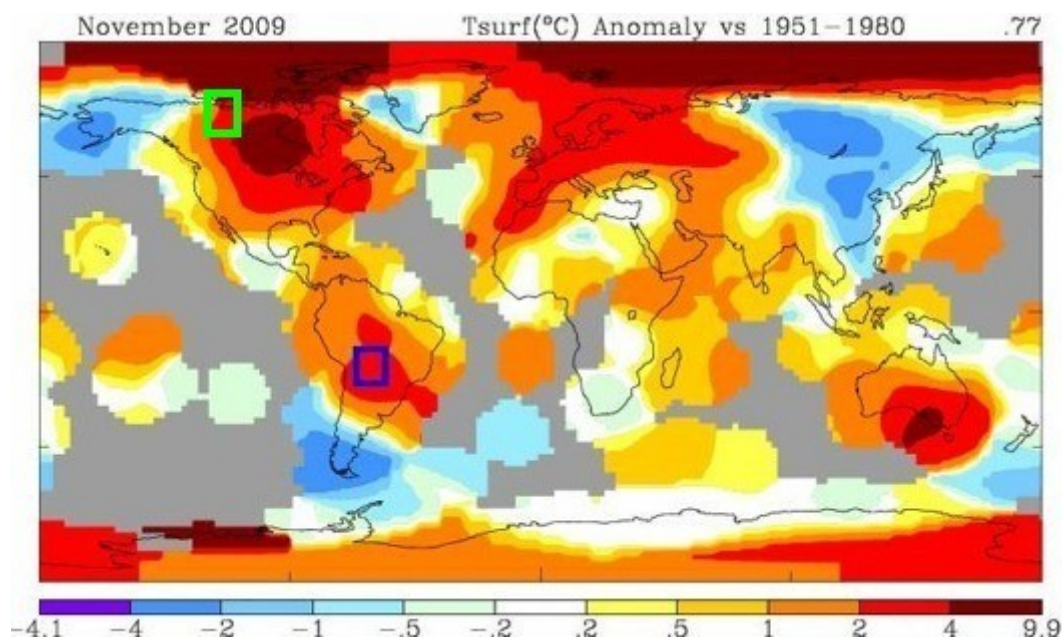
NOAA は世界中の 6,000 基もの気温観測ステーションを使って（ステーション自体は 13,000 基存在）、地球の気温データベースを作成しており、NOAA のデータベース（GHCN）は CRU や NASA・GISS（米国航空宇宙局 Goddard 宇宙飛行センター）など世界中の研究機関が利用しています。ところがメディアでも報道されているように、NOAA は温暖化を示す一部のステーションのデータだけを公表し、温暖化を示さない大多数のデータは破棄していたことが発覚。



上の図（青線）は NOAA の公表している世界の気温のデータ数（＝統計に入れられているステーション数）ですが、1980 年以降、急激に減少しています。温暖化を示しているステーションだけを選別したのですから、地球気温はステーション数に反比例して急上昇しています（ピンク）。

詳細に調べてみると、1963 年にアメリカでは 1,850 基の気温観測ステーションが稼動し

ていましたが、80年代以降、データとして利用されるステーションはどんどん減り、2007年には僅か136基のみが稼動している状態でした。生き残ったステーションも都市化・温暖化の起きている地域に極端に集中しており、例えばCalifornia州はSan Francisco空港と、Los Angelesのダウンタウンとビーチに設置された合計4基のステーションだけ、Hawaii州に至っては飛行場に設置されたたった1基のステーションしか使われていません。



アメリカ国外でも、例えば高山性気候で寒冷化の進むボリビアの気温観測ステーションのデータは1990年を境に統計から外されており、それにも拘らず昨年の世界温暖化マップでボリビアは顕著な温暖化を示しています（上図の青い四角）。20年間もステーションが稼動していないのにどのように気温を測定したのか不思議ですが、調べてみるとボリビアの気温は、なんと1,200 km離れたペルーのビーチとアマゾンのジャングルに設置されたステーションの物がコピーされていたようで。カナダの気温観測ステーション数も、600基から2009年には35基にまで不自然に減っていますが、温暖な地域のステーションのデータが寒冷な内陸部にそのままコピーされ使われていて（上図の緑の四角）。プログラマーのHarry君が見つけた驚いたのは、きっとこのことだったのでしょ。

観測ステーションの廃止や測定機器の故障というのならまだ分かりますが、データ上、存在しないはずのステーションには今でも観測員が常駐しNorth CarolinaのNOAA本部へデータを送り続けており（無人の物もあります）、どうやら温暖化を示さないステーションのデータはNOAA内部で蒸発してしまうようです。IPCCの次期レポートには、

『地球温暖化で観測データが蒸発する』

と載るのは間違いなさそうですが、因果関係は逆。

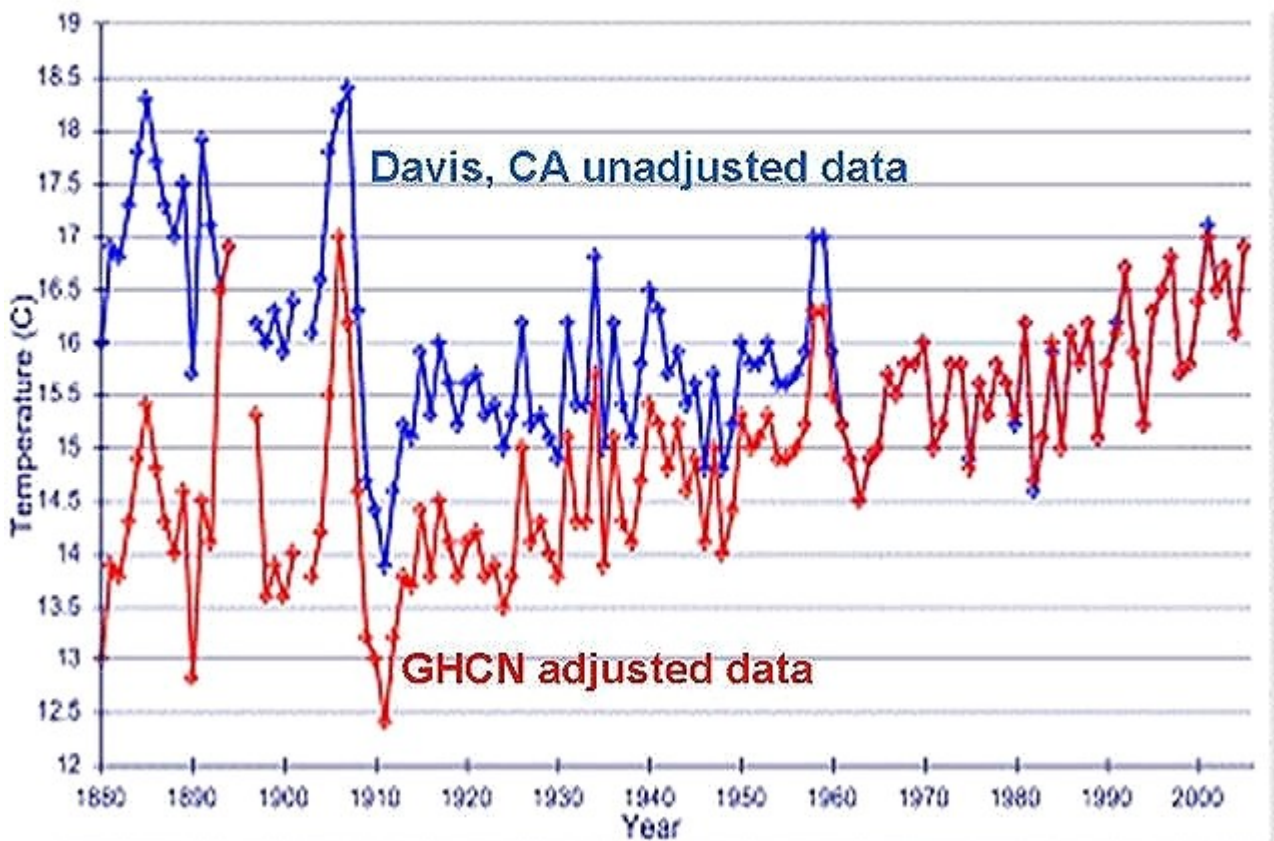
他にも、NOAAは数々の不正を行っていたことが指摘されています。前編にも書きましたが、市民が調査を行ったところ、NOAAの気温観測ステーションはエアコンの排熱

口の近くやアスファルトの駐車場の上等暑い場所に移動されており、全米のステーションのなんと 89%が不適切な場所に置かれていたことが発覚しています[10]。

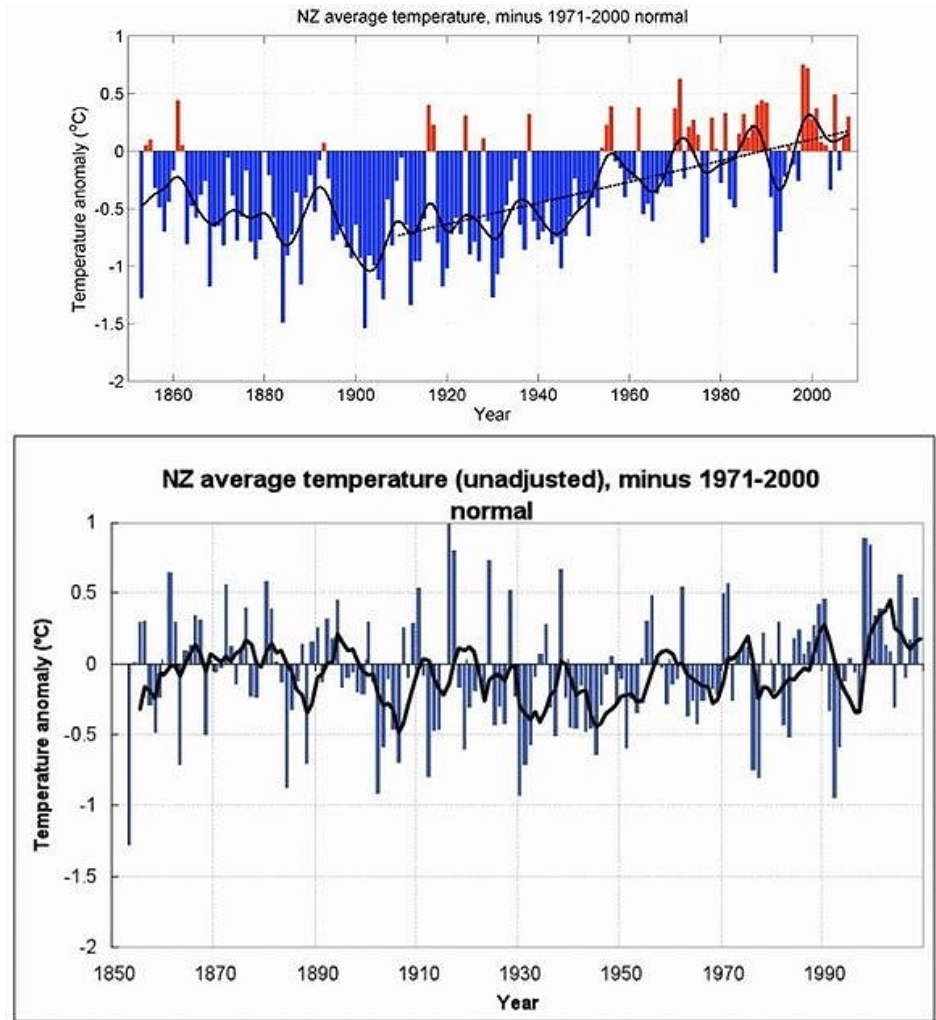
また、NOAA の公表している気温データ自体、不自然な補正の施されていることが多くの研究者によって指摘されています。NOAA はステーションの原データではなく、標高や天候などローカルな要因を“補正”したものを公表していますが、どのような補正を行っているのか公開していませんし、原データの公開については頑なに拒否していました。この補正が科学的手法だったのか、それとも完全な捏造だったのか、他の科学者は知る由もないわけです。

NOAA の補正に疑問を抱いた研究者らは、幾つかの温度観測ステーションに乗り込んで原データの調査を行ったところ、驚くべきことが分かりました。

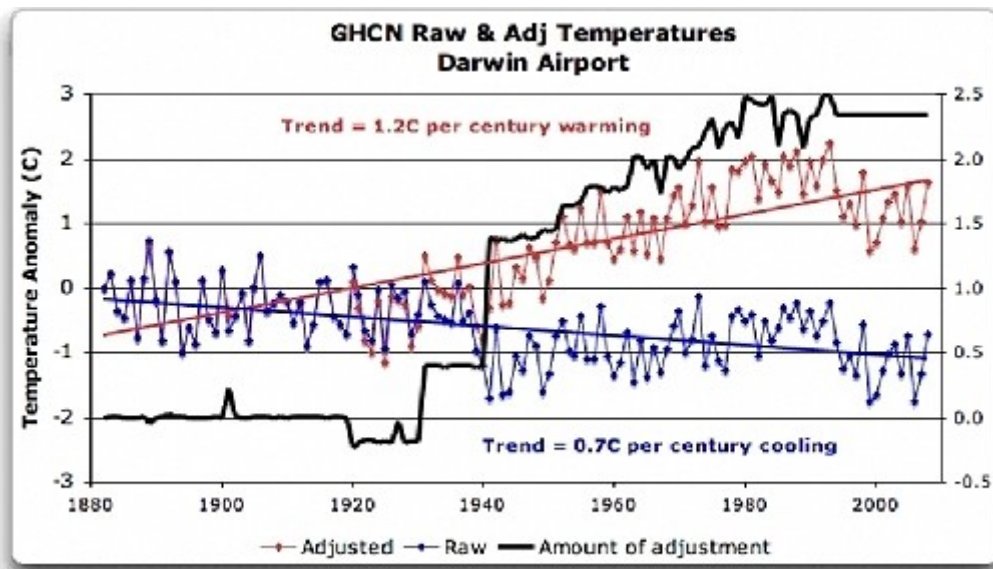
Davis, CA, Closest Rural to SFO



上のグラフは California 州 Davis 市の温度観測ステーションの原データ（青）と、NOAA が公表している補正後のデータ（赤）。原データでは長期的な寒冷化が見られますが、補正後のデータではなんと顕著な温暖化が現れています。オーストラリアやニュージーランドのデータも同じで、見付かった原データはいずれも温暖化を示していませんでした。



上図はニュージーランドの気温変化、上が GHCN 発表 (NOAA の補正が施されたもの)、下が生データ。下図はオーストラリアの Darwin 空港の近くのステーションのデータ、赤が GHCN 発表で、青が生データ。



(恐らく証拠隠滅のため) 原データの多くが既に破棄されており断定はできませんが、どうやら地球温暖化は NOAA の“謎の補正”によって生み出された物であり、どのようなクライテリアで補正を行ったのか NOAA が公表しない限り、本当に地球温暖化が起きていたのか評価出来ません。 NOAA の観測データは CRU や NASA・GISS が発表している地球気温のベースにもなっており、

『200X 年は観測史上 X 番目に暑かった』

という NASA の発表も、もはや全く信用できないわけです。

では NOAA だけが悪者で、CRU や NASA・GISS は騙されていただけかということ、どうやらそれも違いそうです。Phil Jones 教授など CRU の連中は科学ジャーナルの査読プロセスを政治力で支配し、温暖化に否定的な論文の掲載を拒否し“懐疑派”の粛清を行っていましたし、イギリス気象局 (UK Met Office) と共謀し温暖化に不都合なデータを隠蔽・改竄・破壊していたこともメディアで報じられています。NASA・GISS の James Hansen 所長も“補正”や原データについての情報公開請求を悉く無視していましたから(情報公開法違反で訴訟になっています[11])、結局、みんな NOAA のデータ不正・捏造を知った上で利用していたのでしょう。

温暖化研究で NOAA は年間 4 億ドル、NASA に至っては年間 13 億ドルもの助成金を得ています。温暖化の警鐘を鳴らすほど得る物も大きいわけで、IPCC を含め業界の中枢部が金で完全に腐っていたのでは、というのが私の印象です。

地球温暖化がここまで大きく叫ばれるのはもちろん利益を得ている人間がいるからで、ノーベル平和賞の Al Gore は温暖化ファンドや原発絡みで 1 億ドルも荒稼ぎしていましたし、IPCC の Rajendra Pachauri 議長も温暖化ビジネスで一財産築いており[12]、メディアによって金の流れが明らかにされれば地球温暖化詐欺の構図が自ずと見えてくるのではないのでしょうか。

先週の欧州議会ではイギリス選出の Godfrey Bloom 議員が温暖化詐欺をブラックユーモアで痛烈に批判しており、ニュースを見ていて思わず笑ってしまいました[13]。

Obama 政権は“グリーン・ニューディール政策”とやらの 1,500 億ドルもの巨費を注ぎ込もうとしていますし、ヨーロッパ各国も多額の税金を温暖化対策に費やしています。日本も産・官・学を挙げて二酸化炭素削減に突っ走ろうとしていますし、CRU、IPCC、NOAA、NASA・GISS など、温暖化研究の頂点に君臨する研究機関が共謀し世界中を騙していたのは、まるでオペラ『ファルスタッフ』のフィナーレのよう。

“Tutto nel mondo è burla! (世の中すべて冗談さ!)”

Climategate に限らず、科学の世界ではデータ不正・捏造が後を絶ちませんが、それらの多くは個人の不正に過ぎず、今回の Climategate は業界がグルになって悪事を働いていたという点で科学界に与える後遺症は測り知れないでしょう。科学に携わる者としてこれ程の無力感に打ちのめされたことはありませんが、科学の不正は科学によって正すしかないことは認識しているつもりです。

いずれにせよ、今後暫くは FBI と Scotland Yard に頑張ってもらうことにして、私はこの辺でペンを置きたいと思います。

References:

- [1] S. Mosher and T.W. Fuller, Climategate The Crutape Letters, Amazon Digital Services (2010).
- [2] <http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article6991177.ece>
- [3] <http://www.timesonline.co.uk/tol/news/environment/article7000063.ece>
- [4] 小林泉, 国際開発ジャーナル 2008年8-11月号『水没国家ツバルの真実』.
- [5] J. Morison et al., Geophys. Res. Lett. 34 (2007) 07604.
- [6] <http://www.ijis.iarc.uaf.edu/jp/seaice/extent.htm>
- [7] T. Mölg et al., Int. J. Climatol. 28 (2008) 881.
- [8] http://www.wmo.ch/pages/prog/wcrp/pdf/3.7_Adosi_Resilience_JSC-28_Afr_28.03.2007.pdf
- [9] http://www.anenglishmanscastle.com/HARRY_READ_ME.txt
- [10] http://scienceandpublicpolicy.org/images/stories/papers/originals/surface_temp.pdf
- [11] <http://pajamasmedia.com/files/2009/11/DOC112409-001.pdf>
- [12] <http://www.telegraph.co.uk/news/6847227/Questions-over-business-deals-of-UN-climate-change-guru-Dr-Rajendra-Pachauri.html>
- [13] http://www.youtube.com/watch?v=2TOFe85cmAE&feature=player_embedded

※以下のページで、NASA・GISS が公開している気温観測ステーションを調べることが出来ます。例えば世界地図で日本をクリックすると、日本に点在する観測ステーションの多数が 1990 年を境に統計から外されていることが分かります。ステーション自体は存在し続けており、（恐らく都市化による温暖化を強調するため）アメリカのステーションと同様の恣意的な選択がなされたわけです。

http://data.giss.nasa.gov/gistemp/station_data/